

男女がともに 輝くために

共に輝くみほの会
—美浦村女性行政推進協議会—

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)209

存在を認め合う事

林 昌子

先日、地域の中で活動されている女性から伺った話です。その方は50年前、結婚当初は共働きでした。(当時、既婚女性はいわゆる「専業主婦」が多い時代でした。)そのような中、ご近所の方の結婚式やお葬式があると、お手伝いをするために、その都度仕事を休んだそうです。何度も休むと社長から「あんたはどこから給料をもらっているんだ。」と言われ、つらい思いをしながら過ごしたというのです。それでも、ご近所のお手伝いをするときは、自分にできることを見つけてお役に立てるよ

うに心がけ努めたそうです。そして今は、当時自分がつらい思いをした分、若い世代には強要せず、できる範囲内でかわってもらえるようにと、地域の方々にも理解を促されているとのことでした。

またその方は、「地元で生まれて長年住む方も、移住して新しく住民になった方も共に心豊かに暮らすためには、慣習や固定概念にとらわれずお互いを理解しようとする事」が生活しやすい環境を目指すとして、これは女の人がやるもの、これは男の人がやるものと性別で決めるのではなく、できる人がやるという考え方が大切だと思う。」と話されました。

若い世代が減り、地域でのかかり方は昔と今では変わらざるを得ない時代の流れを感じています。私は、前向きで生き生きと地域のために活動されているこの女性の生き方に感銘を受けました。

孤独や苦しさに押しつぶされて自殺する方が増えている

現在、理解しあえる存在が必要とされています。「遠くの親戚より近くの他人」との諺(ことわざ)があります。今住んでいる地域で自分らしく生きていく、ふれあう方々の存在を認め合う気持ちをもって過ごしていけたら、素敵な日々が過ごせるのではないのでしょうか。



男女共同参画社会について 一緒に学んでみませんか？

共に輝くみほの会—美浦村女性行政推進協議会—では、活動を共にできる会員を募集しています。(男性も入会できます)

□お問合せ 役場企画財政課



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 字結び「晩・夏」(一字以上読み込むこと)

夏の暑さに蝉の音聞くとさらに噴き出す玉の汗
秋の長雨涼しさ連れて夏の名残りを消していく
たった七日の短い夏を命尽くして蝉しぐれ
令和3年コロナと五輪でんやわんやで去った夏
テロとコロナと天候不順世界ゆるがせ夏が逝く
子らの楽しみプールも中止一人遊びの夏休み
夏を惜しんで刹那く泣いた地中七年法師蟬
マスク外せず日差しも避ける眼だけ物言う夏帽子
タフで明るく障害見せぬ勇気努力に夏エール
風呂は五右衛門カナカナ鳴いて祖父母田舎の夏恋し
空に火の玉東京戦火夏の思い出母の背
感謝感動五輪の夏は希望溢れた金の汗
夏の炎天多彩に咲いて盛り秋まで「百日紅」
暑い夏過ぎいつしか秋に作が気になり掴む初
コロナ開催感動五輪越える限界あついで夏
夏もこころが峠じゃないか高くそびえた雲の峰
時を惜しむか残暑の中でセミがしきりに鳴く晩夏
襦袢のアパートあの頃語り老妻と晩酌つぎ注がれ
夏の暑さに稲穂も実のり秋の訪れ待つばかり
酷暑・コロナの猛威の夏に競う世界の熱き友
夏の日除けに朝顔育て猛暑続きて夢破れ

十月の俳句(題 当季雑詠)

どの道を行くも稲の香黄金道
燿歌の山すべてまぼろし秋の風
栗めしやわれ病みたれば栗ひとつ
怖い程天を染めたり秋夕焼
秋刀魚焼く母は何度かハミングし
手を合わすひ孫の仏花華やいで
亡き母を喜ばさんと松手入れ
亡き友とめぐりし笠間菊花展
茹でられてつるり珠肌きぬかつぎ
椅子倒し顔に歳時記秋うらら
秋風や名残の花の色冴えて
秋の蚊は打たずに拂ふ老いの掌は
初スマホ吾子と楽しむ長夜かな

- 井戸賀蘇道
- 石戸葎華
- 増尾青蓮
- 高橋一步
- 田島草実
- 山岡亜子
- 塚本夏雲
- 関根秀子
- 門脇悠美
- 酒川夢花
- 山崎泰弘
- 上野八千代
- 小園江久美
- 飯塚筑風
- 沼寄朋香
- 篠原美千代
- 伊藤葉子
- 山崎笑子
- 山岸錦洋
- 長谷川悦子
- 木村幸子
- (五十音順)
- 青野安佐子
- 石毛恵美子
- 市川紀行
- 海道民子
- 木澤はしめ
- 小林美佐恵
- 高柳幸子
- 田島早苗
- 中島輝子
- 長田敏笑
- 増尾尚子
- 松本秀子
- 山口美代子